

【 実践報告 】

人間福祉学会（島根ブロック大会） 活動報告

広島文教女子大学 人間福祉学会 事務局

I. はじめに

広島文教女子大学人間福祉学会は、教員・卒業生・在校生が中心となり、卒業後の学びの場、情報交換の場となることを目的として、平成14年に創設されました。本学会も13年目を迎え、多くの卒業生を福祉実践現場に輩出し、活躍を耳にする機会も増えてきました。

本島根ブロック大会は今年度で3回目となります。今回は雲南広域連合の共催で『地元の将来を考えるフォーラム Ver.ふくし「どげすーの？ in 雲南2017」』を開催しました。

第1部では、島根県の高齢化の現状と介護人材確保について（島根県健康福祉部高齢者福祉課）と、ソーシャルワーカーの役割（本学教員）というタイトルで、それぞれ講演が行われました。その後、高齢化社会の「これから」に向けて～介護人材確保の視点から～のフォーラムでは、「伝えたい福祉の魅力！」と題し、島根県在住の卒業生2名と雲南市で働く介護福祉士の方による実践フォーラムを行いました。第2部では、来場していただいた高校生対象に、福祉の領域ごとにブースを設け、福祉専門職の交流会を行いました。第3部では、情報交換会、第4部では、大会総括を行いました。第1部の概要を中心にご報告します。

II. 日時・場所

（日時）

平成29年8月5日（土）～6日（日）

（場所）

第1・2・4部 雲南市木次経済文化会館（チェリヴァホール）大・中会議室

（雲南市木次町里方55番地）

第3部 ホテル上代

（雲南市三刀屋町三刀屋20番地）

III. 内容概要



1. 第1部

講演1

タイトル

高齢化社会の「これから」に向けて～介護人材確保の視点から～

講師

島根県健康福祉部 高齢者福祉課

施設サービスグループ 小松原 茂雄 企画員

介護人材確保を巡る現状は厳しく、平成28年度の調査において、介護人材の安定的確保と事業の

安定運営に必要な施策として「介護報酬の見直し」や、人材確保・定着のための施策として「中高年齢者への入門的研修や職場体験の実施」が調査結果から必要なことが示された。課題への今後の対策としては、介護業界のイメージアップや処遇改善、環境改善に取り組む必要があることや、加齢は誰にでも訪れるという当事者意識を共有することが重要である。

講演 2

タイトル

「つながること、いきることを支える～ソーシャルワーカーの役割を中心に～」

講師

広島文教女子大学 人間科学部
人間福祉学科 中村 卓治 教授

社会福祉専門職は、生活を支える仕組みや、問題解決のために必要な専門的知識や技術を有し、支援を必要とする人を中心に生活を支えることに責任をもつ者である。その中でソーシャルワーカーは、支援を必要とする人が抱える生活上の問題の一つひとつ本人とともに、解決していくためのお手伝いをするのが役割である。

これからのソーシャルワーカーに必要な役割や取り組みは、21世紀の共生理念であるソーシャル・インクルージョンである。社会的に弱い立場にある人々を排除・孤立させるのではなく、共に支え合い生活していこうとする考え方である。ソーシャルワーカーは、社会的に弱い立場にある人が地域から孤立しないよう地域住民に働きかけ、地域社会とのつながりを作り、地域全体で幸福実現に向かうことを支えるため連携や調整をする役割を担っている。

フォーラム

テーマ 「伝えたい福祉の魅力！！」

講演者

○精神保健福祉分野

1 期生 曳野 由季子（旧姓 細田）さん

○児童福祉分野

2 期生 玉木 友佳子（旧姓 深田）さん

○高齢福祉分野

島根県在住 介護福祉士 市場 将仁さん



福祉現場の仕事内容と福祉の魅力をテーマに、3者に実践報告をしていただきました。

曳野さん

大学卒業後、精神科クリニックでの経験を経て相談支援事業所で現在勤務している。福祉は、人々の生活とともにあるもので、他人ごとではなく、自分ごとであることを結婚や子育てをする中で痛感している。小さな幸せを見つけ、その人らしさやその人のやりたいことを形にすることが福祉の仕事だと思っている。また、仕事も家庭も感謝の気持ちを伝えあうことやお互いさまの心を忘れないことを大切だと実感している。このような気持ちに気づかせていただいた福祉の学びや仕事や出会いに、魅力を感じている。

玉木さん

大学卒業後、保育士として6年勤務し、結婚を機に退職し、現在は医療ソーシャルワーカーとして病院に勤務している。

保育士の仕事の魅力は、やはり子どもの笑顔や成長である。楽しいことばかりではないが、この笑顔や成長を見ることで、仕事を頑張ることができた。医療ソーシャルワーカーの仕事の魅力は、その人の人生と一緒に考え、嬉しさを共有することができることである。また、患者や家族との出

会いから、多くの学びを得ることもできている。保育士の仕事も医療ソーシャルワーカーの仕事も生きることを支える素晴らしさを感じることが出来る魅力ある仕事だと思う。また、学び続けることや仲間と学び合うことの大切さを感じている。この学会の存在も自分の連携やネットワークを広げることにつながり心強い存在となっている。

市場さん

専門学校を卒業後、介護福祉士として就職し、6年目となる。高齢化率が上昇を続けている日本で、福祉・介護の仕事は長い目で見て活躍が期待できる仕事である。介護の仕事の魅力・やりがいは、人の役にたっていると実感できることや、利用者ができないと思っていたことができるようになった時に一緒に喜びを感じることができること等である。また、自分は趣味の歌を仕事で活かすことができている。職場の同僚も料理や魚釣りなどの趣味を職場で活かすことができている。今後の自分の役割は、雲南で暮らし続けたい方の夢を叶えるための出前講座等続けることや、小学校や中学校で講演をし、介護の仕事の魅力を伝えることだと思っている。



2. 第2部

第2部では、福祉の分野ごとのブースを設け、来場者の高校生も熱心に質問をしてくれました。

3. 第3部

第3部では、情報交換会を行いました。島根で

就職している卒業生同士の交流も行われました。

4. 第4部

第4部では、大会総括を行い、今後の人間福祉学会島根ブロック大会のあり方について話し合いました。

IV. 総括

今年度で第三回目となる島根ブロック大会は、雲南広域連合と共催し、中学生・高校生・住民の皆様とともに雲南地域の福祉の現状を確かめあい、現在と未来の福祉の担い手づくりの路を拓くことを目的に開催しました。また、本学科教員に加え、島根県にゆかりのある、本学の森下要治新学長と岡利道副学長、さらには虻江紀雄先生と塚村英幸先生にもご参加いただきました。

実践フォーラムの中では、困難に直面した時に、養成校で学んだ知識を振り返り、専門性を再確認することで日々の関わりを考え直す機会になっていることや、島根県在住の卒業生が本学会で繋がり、情報交換を行うことで前向きな気持ちになれる機会ができていける等の話を聞くことができました。

来場者の中には、福祉に関心のある方や高校生の姿も見られ、この学会で、現在と未来の福祉の担い手づくりにより関心を深めていただいたら幸いです。来年度以降の開催については、島根県在住の卒業生がますます繋がっていけるように運営していきたいと考えています。

